

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>にそよぐ草や木」としたものが多い。(正答率46%)</p> <p>3 作者の「気持ち」を問う設問では、58%の正答率を示している。誤答では、④が比較的多く、次に⑦である。④は、正答である⑤ととても似ているが、「山では、まだとれないので」というところを見逃したものと考えられる。⑦は、「とりたてでないと、ねうちがない。」というもっともらしい表現が、本文から逸脱していることに気がつかなかったからと思われる。</p>	<p>すれば、容易にとらえられよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 問題文の詩は、短歌・俳句にあるような文語調の表現や、難しい語句もなく、わかりやすい文章である。作者の気持ちも、児童には素直に受け入れられるものと思われる。 ◦ 日頃、児童の言葉に対する感覚をみがく指導を繰り返し行うことが大切である。
<p>観点⑤(文・文章を読む)について</p> <p>前半の段落の区切りや文章の主題・要旨・要点をとらえる問題でつまずきがみられた。文章全体とのかかわり合いの中で、段落がどのような役割をしているかをとらえるようにすることが重要である。また、文章の中で使われているさまざまな接続の語句や、指示語などの密接なつながりを指導していく必要がある。</p> <p>修飾・被修飾の指導に当たっては、特に、形式的な理解だけに終わってしまわないよう気をつけなければならない。ひとつの文の中だけで構造をみていくのではなく、全体の構成や関連を把握させながら、文の働きを理解させていくようにしたい。⑤の正答率は46%である。</p>	
観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>⑥ 文・文章を書く</p> <p>一、文章の中で、指示語・接続語を正しく使う</p> <p>(1) 「しかし」の逆接の接続詞はよくとらえられている。(正答率87%)</p> <p>(2) 「そこで」の順接と「また」の並列・累加との混同がみられる。(正答率74%)</p> <p>(3) 正答率は72%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 書く対象をよく観察して具体的に書こうとしたり、よくわかるように書こうとすると、どうしても文章の構成が複雑になり、接続語や指示語の使用が多くなる。それらの誤用がみられるのは、その種類が多様になる中学年以上からなので、特に留意したい。
<p>二、ことばを続けて文をつくる</p> <p>設問は、それぞれ三例の中から正解を選ぶようになっている。70%をこえる正答率でよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 問題文はかなり論理的な文章であるので、言葉の係り受けが混乱した児童もみられた。落ち着いてじっくり読ませたい。